

# 清流

題字：芳野 充

令和元年10月30日  
第34号

発行所 加来不動産(株)  
発行者 加来 寛  
北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに  
静かに  
清流のように

## 「知識」は、人の役に立つために身につける

お恥ずかしい話ですが、学生のころのわたしは特に、勉強がキライでした。この勉強ギライは、その後の進学にも影響をおよぼし、高等学校卒業が最終学歴となりました。高校卒業後まもなく、家業を継ぐわけですが、この勉強ギライは治りませんでした。

仕事上において、わたしの知識、経験不足でお客さまに迷惑をかけてしまうことも多々ありましたが、わたしのなかでは、「申し訳ない」という思いよりも、「しょうがない」と、開き直りにもちかい気持ちが多くを占めていました。また、「同じまちがいをしないように知識や経験を深めよう、という気持ちも皆無に近かったように記憶しております。本当に恥ずかしい限りです。

それから時をおいて、先代が心不全で急逝しました。退路を絶たれたわたしは、さすがに焦り、様々な本を読むようになり、セミナーにも参加するようになりました。そのタイミングで素心学塾長の池田繁美先生と出会うことができました。しかし当時のわたしには、池田先生のおっしゃる、「素直さ」や「謙虚さ」、「思いやり」という本当の意味が理解できていませんでした。

「素直さ」「謙虚さ」「思いやり」というものを、勉強させていたただくなかで、先代の母が亡くなる数日前にわたしに遺してくれた、「これからは恩を返す生き方をしていきなさい」という言葉の意味を、少なからず意識できるようになってきたとき、知識や経験がないと、恩を返しづらい上に、人や世のなかの役に立つことはおぼろしい、と実感するようになりました。

「謙虚さがなくなる兆候十四項目」の七番目には、「仕事に自信が出てきて、勉強をしなくなる」とあります。また、「知識は礼儀」という言葉があります。最近、本当にそうだと実感します。とは言え、まだまだ力不足で、いまでもお客さまに不快さや、ご迷惑をおかけしている現実があります。「知識」は、人の役に立つために身につける。このことをわたし一人ではなく、スタッフ一人ひとりと共有していきながら、まずはご迷惑をおかけしている現実を減らしていく。その上で、喜んでいただけるよう、知識を深め、自らを磨きつつ歩いていきたいと思います。

加来 寛

